

会 議 録

1 会議名

平成27年度第5回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 委員視察研修について(公開)
- (2) 地域活動支援事業に係る意見・課題及び改善策等について(公開)
- (3) 自主的審議につなげるための津有区の現状分析について(公開)

3 開催日時

平成27年9月9日（水）午後6時30分から午後8時05分まで

4 開催場所

公民館津有分館 1階 中会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：太田晃、小川和夫、草間美江子、手嶋千恵子、服部香代子、平岡一夫、古川三男、牧野嶋剛(副会長)、町田敏章(会長)、丸山彰、丸山百合子、横田芳友（欠席3人）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、恩田係長、小林主事

8 発言の内容（要旨）

【小林主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【町田会長】

- ・挨拶

【小林主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により会長に議長を依頼

【町田会長】

- ・ 会議録の確認：草間委員に依頼

議題（1）「委員視察研修について」ということで、昨年度は高士区と合同で長岡市の栃尾地区と山古志地区を訪ねた。栃尾地区の「農村レストラン」では、少子高齢化が進んだ地域において地域資源を生かした活動方策等について話を伺った。また、山古志地区の「復興交流館」などでは、地元の方から震災当時の話や復興を目指して地域づくりを行う様子について話を伺った。

本日は、今年度の視察研修の実施の有無と、視察内容・視察先等について協議し、決定していきたいと思う。今年度の視察研修を実施するかどうか、意見を求める。

【牧野嶋副会長】

実施したいと思う。

【町田会長】

他の皆さんは、実施することとしてよいか。

（「はい」の声）

例年どおり実施することとする。実施することが決定したので、次に視察先と内容の候補について事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・ 資料No.1 及び参考資料に基づき説明

【町田会長】

正副会長が考える研修テーマを、「世代・地域を超えてつながるまちづくり」と「ふるさとの魅力継承」と設定した。先日、事務局との打合せを行い、自主的審議の中で見えてきた津有区の課題を考慮し、その課題解決のための参考になるのではないかと考え、今回の視察先を提案させていただく。

今程の事務局からの説明に対して質問等がある方は発言していただきたい。

（応答なし）

それでは、正副会長案の他にも視察したいと考えている場所があれば取り入れていきたいと思う。私としては、今回の視察先は自主的審議を進めていく上で、津有区の課題とマッチした視察場所だと思うので、これからの「津有区のまちづくり」を考えていく参考になると思う。

【丸山彰委員】

中野市豊田農産物加工施設では、農産物を加工した商品を作っているようだが、これらの商品の販売も行っているのかを確認したい。

【小林主事】

近くの道の駅などへ出荷している。また、加工施設内で販売も行っているようだ。

【丸山彰委員】

興味があるので日程が合えば、ぜひ行ってみたいと思う。また、私が担当している「津有地区地域づくり協議会」の先進地視察でも、来年度の研修の参考にさせてもらいたいと思う。正副会長の案に賛成する。

【古川委員】

私もとても興味がある。正副会長の案に賛成する。

【町田会長】

お二人の委員から賛成のご意見をいただいたので、この内容で進めたいと思うが、他の皆さんはどうか。

(「よし」の声)

次に視察の日程について事務局へ説明を求める。

【小林主事】

- ・視察日程について説明

【町田会長】

事務局から説明があったように、11月13日(金)であれば、「小布施若者会議」の立ち上げをはじめ、中心的に活動されている実行委員会の方からお話を伺うことができるそうだ。私としては、せっかくの機会なので、実行委員会の方からお話を伺いたいと思っている。今の時点で都合の悪い人はいるか。

【丸山百合子委員】

私は毎週金曜日が仕事のため、この日程だと出席できないと思うが、皆さんで実行委員会の方からお話を伺って来てほしい。

【牧野嶋副会長】

都合の悪い方もいるとは思うが、実行委員会の方からお話を伺った方が参考になると思うので、この日程で実施してはどうか。

【丸山彰委員】

どの日程にしても、都合の合わない方は必ず出て来ると思うので、この日程で実施

してはどうか。

【町田会長】

それでは、11月13日（金）で視察を行いたいと思う。なるべく多くの皆さんからの出席を願う。

この件について、事務局に補足説明を求める。

【小林主事】

- ・高士区と合同研修になる見込みであること等について説明

【町田会長】

事務局から説明があったとおり、日程や内容等の詳細については、後日通知する。

次に、議題（2）「地域活動支援事業に係る意見・課題及び改善策等について」に移る。先日、委員の皆さんからアンケートにご協力いただいた結果が、資料No.2にまとめられている。まず資料について、事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・資料No.2により説明

【町田会長】

皆さんから回答していただいた意見について「津有区地域協議会として市に報告するかどうか」を検討していきたいと思う。

意見の1つ目について、市への報告が必要かどうか皆さんの意見を求める。

【牧野嶋副会長】

津有区のこれまでの提案状況をみると、590万円の配分額に対して最高で1千万を超える額の提案が出てきているのが現状である。しかし、沢山の予算をいただくことになると、採択できる事業が増えることから、その分慎重な審査が必要になる。

もし、配分の方法が変わるとなれば、条例等の改正も必要となってくるので、津有区の中では解決できない課題であるため、市へ報告してもよいと考える。

【古川委員】

もし市に報告するのであれば、市として基本は変えられないと思うので、配分額が余った区から他の区へ流用できるかどうかを検討してもらえばよいのではないかと考える。各区の採択状況も大切だが、津有地区の防犯灯に関する事業は来年度で終わる見込みである。再来年度以降も沢山の提案が出てくればよいが、津有区も残額が生じてくる可能性が出てくる。

【町田会長】

会長会議でも残額を他の区へ流用できないかという話も出ているが、市としては現時点ではできないということだ。繰越しに関しても、基本的には単年度予算であるためできないということだ。

【小川委員】

事務局に伺いたいのだが、このアンケート結果について、挙がってきた意見等の総数を教えていただきたい。

【小林主事】

総数は9件である。「課題なし」の回答が多かった。また、同じ意見を一つにまとめた結果、3件となった。

【小川委員】

承知した。今、協議している意見は大切なことだと思うが、決められた額で数年間やってきて、特別大きな問題はなかったと思う。よって、これまでのように、この予算の中で工夫していくのがよいと思う。私は市への報告は不要でよいと思う。

【町田会長】

確かに配分額が増えると、その額を使い切るための安易に採択してしまう可能性があることも事実である。小川委員が言われたように、決められた配分額の中で工夫して採択していくことも大切だと思う。

【丸山彰委員】

私も小川委員の意見に賛成である。

【町田会長】

協議会としての総意が出たと思う。意見の1つ目については、市への報告は不要としてよいか。

【草間委員】

皆様のご意見を伺う前に、これに関連して意見がある。地域活動支援事業は、地域の中で新たに立ち上げる団体や事業の支援も対象になっていると思うが、新たな取組みを行うときには、やはり資金がないとできない部分が多い。たとえ他の区からの流用や予算の次年度繰越しを行ったとしても、地域活動支援事業の配分額内では、カバーしきれないと思うが、このような団体のための補助金は他にないのか。

【恩田係長】

地域活動支援事業以外に、自治・地域振興課が担当課である「地域を元気にするために必要な事業提案事業」というものがある。頸城区の活用事例があるが、実現までに3年ほど掛かっている。地域協議会は、いかに地域を巻き込んで、形になるまで育て上げるのかということになる。皆さんの発意によって、選択肢が他にもある。

【草間委員】

よく分かった。

【町田会長】

それでは、意見1の件については市へ報告しないこととしたいが、皆さんはよいか。

(「よい」の声)

次に、意見の2つ目について協議する。この件については、津有区の中で対応すればよいと思うので、市への報告は不要でよいと思うがどうか。

(「よい」の声)

最後に意見の3つ目について、これも市への報告は不要ということでよいか。

(「よい」との声)

3件全て市への報告は不要とするが、津有区の中で解決できることについては、今後の協議会の中で時間をつくり、協議していきたいと考えている。

それでは、議題(3)「地域活動フォーラム開催に係る事例発表候補者の推薦について」協議を行う。

例年、地域活動フォーラムに向けて、各区から発表団体を推薦しているが、今年度は28区の中で、今まで事例発表をしていない区から候補団体を推薦し、その中から市が発表団体を選定すると伺っている。津有区では、昨年度は、「文化財等の掘り越し事業」を行った「津有地区地域づくり協議会」を推薦したが発表にいたらなかった。

今年度の推薦については、平成26年度と27年度の事業が対象となるが、27年度の事業については、フォーラムが開催される12月までに活動が終了していない事業については対象外となる。

正副会長の考えとしては、平成26年度の「津有地区地域づくり事業」がよいと思う。平成27年度にも、継続して事業を行っているし、新たな取組みとして「前島密翁の生誕180周年記念事業」を実施し、「のぼり旗」と「紙芝居」を作成しているので、その辺も含めて事例発表をしていただければよいと思い、推薦したいがどうか。

【古川委員】

継続されている事業なので、正副会長が言われるとおり、この事業がよいと思う。

【町田会長】

ただ、「のぼり旗」については出来上がっているので発表できるが、「紙芝居」については12月までに間に合うか。

【草間委員】

絵は完成しているので、これから絵に合わせて文面を作成することになる。このペースで進めば間に合うと思う。

【丸山彰委員】

間に合うのであれば推薦したいと思う。

【牧野嶋副会長】

12月までに事業全体は完了しないが、何年も前から継続して実施している事業なので、十分発表できると思う。

【町田会長】

それでは、「津有地区地域づくり事業」を行った「津有地区地域づくり協議会」を推薦することでよいか。

(「はい」の声)

次に議題(4)「自主的審議事項」に入る。

前回及び前々回のフリートークの際に、皆さんから頂いた意見をまとめたものが、資料No.4になる。この資料について事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・資料No.4により説明
- ・「中学生のまちづくりワークショップ」について牧野嶋副会長に説明を依頼する

【牧野嶋副会長】

育成会議を中心に「中学校まちづくりワークショップ」を行っている。昨年度までは、生徒たちが教育委員会に出向いて、市長に提言するものだった。それが今年からは、中学生が自分たちの住む地域について考え、その結果見えてきた課題やその解決策等を地域の団体へフィードバックするようなやり方になった。そこで、雄志中学校では、その発表の場として地域協議会を考えている。

進捗状態だが、今年の2月と8月に上越市内の全部の中学生の代表が集まって、合宿という形でワークショップを行った。今は各学校単位で地域提言をまとめた段階だ。

今後は中学校全体の発表会を経て、地域へ発表していきたいと考えている。よって、12月頃に地域協議会での発表を設定できればよいと思う。

生徒たちなりに考えた地域の課題と解決策等について、発案を見ていただきたいと思う。

【町田会長】

雄志中学校の生徒との意見交換会になるので、津有区だけでなく、高士区と諏訪区の地域協議会との合同で実施したいと考えている。他の2区の意向も確認して、進めていきたい。

では、津有区の自主的審議に移るが、大きなテーマを「少子高齢化が進む中で津有区がどの世代にとっても住みよい地域であるために、実施したい取組みについて」に決定した。このテーマに基づき、具体的に実施したい取組みについて皆さんからいただいた意見が資料の①から⑦になる。この7つの意見について、私の考えを簡単に述べたい。

— 以下資料No.4により読み上げ説明 —

①「少子高齢化が進む中で、雄志中学校区全体で連携できるような仕組みを考えたい」については、雄志中学校全体の話で、津有区だけで考えることは難しいと思った。

②「津有区に引っ越してきた人に津有区を選んだ理由や良いところを伺い参考にしたい」については、集約をどの団体をお願いするのかを精査する必要があるので、適当な団体の候補について、皆さんにも考えていただきたいと思う。

③「地域団体と、地域課題の共有や情報交換を行い、出てきた課題を地域活動支援事業を活用し解決する」については、今までもやって来ているが、引き続き町内会長協議会との意見交換会の場で、協議会の中で出てきた課題を伝えて、意見交換をしていきたいと思う。

④「若い世代を地域へ呼び込む仕組みを検討したい」については、その方法等についてもっと具体化していかなくは見えてこないと思う。

⑤「地域の高齢者へのアンケートを実施し、出てきた課題等を地域活動支援事業を活用して解決していく」については、まずはアンケートの実施をどこの団体に依頼するか、地域活動支援事業を活用して実施してくれる団体があるかなどを考える必要があると思う。

⑥「お年寄りが徒歩で気軽に通えるようなサロン等の仕組みを検討したい」につい

ては、津有区地域協議会で検討するのか、それとも他の団体に検討していただくのか、実際に実現するにはどんなことで対応していくのかなど、具体化していく必要がある。

⑦「夫婦や家族が交流できるような地域イベントを検討したい」については、北部だと夏祭りをやっておられるが、これからどのように広めていくかなど考えていきたい。

ということで、いずれにせよ具体化して実現するには、どうすればよいのか考えていきたいというのが、私の考えである。これから意見交換を始める。率直な意見をお願いしたい。

【牧野嶋副会長】

具体的な絞り込みというと、皆さん意見が出しづらいつと思うが、この中ですでに行っている取組みもある。地域活動支援事業の補助金を出した活動というのは、大体当てはまってくる。資料No.4の①は「あいさつ運動」でやっている最中だし、地域イベントは祭りでテントを購入したりしている。

今まで地域活動支援事業で実際に取り組んだ内容がアンケート以外は大体当てはまってくる部分が多い。実施している組織に他のことをやってみてくれという情報提供や働きかけが必要だと思う。

アンケートというのが2つあるが、これはそれぞれの組織でやるか、町内会長協議会でやるか、様々な考え方があると思う。

【町田会長】

アンケートあたりは、町内会長協議会にお願いしていくのが早いのだろうと思っている。そのためにも、町内会長協議会との連携や意思の統一が必要であると考えている。

【牧野嶋副会長】

アンケートの実施は町内会長協議会にお願いする形になると思う。

私の考え方としては、高齢者へのアンケートであれば、実際に行っているサロンに通う高齢者の方にアンケートを採ってもよいだろうし、その他の地域イベントの際に、参加者を対象としたアンケートを行ってもよいと思う。

【丸山彰委員】

これを実現するためには、まず町内会長さん方に「地域協議会」について十分に理解していただく必要があると思う。昨年度も行ったように意見交換会の実施や、地域活動支援事業の募集説明会等を通じて、町内会長と関わる機会を増やしていきたい。

【牧野嶋副会長】

そこをクリアしてから、アンケートの実施などにご協力いただくような形になると思う。

【草間委員】

地域の人口減少や少子高齢化というテーマであれば、町内会長さん方も思いやお考えがあるだろうから、協力していただけたらと思う。

【町田会長】

草間委員が言われたように、地域の課題については私たちだけではなく、町内会長や各団体の方など、それぞれにお考えをお持ちだと思うので、それを聞き出し良い方向に一緒に向かっていくためにも、まずは地域協議会としての課題解決に向けた具体的な方法等について協議を深め、共通認識を持つ必要があると思う。次回の会議までに、この資料をより具体化するための方法について、それぞれで考えて来ていただきたい。

- ・地域協議会だより：速報版は10月15日の広報上越と併せて回覧

(12日迄に町内会長宅に届けるよう依頼)

- ・次回の協議会：10月13日（火）午後6時30分から津有分館
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-5111（内線1449、1547）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。